

霧島市地方創生有識者会議（第1回しごと合同会議）要旨

開催日時	平成27年7月23日（木）13：30～17：00		
開催場所	国分総合福祉センター 3階 大会議室		
出席者	会議有識者部	鶴ヶ野研究部会長、松山研究副部会長、福園委員、山口委員、北川委員、瀬戸委員、楠原委員、中村委員、藤崎委員	
	専門推進本部	野崎部会長（商工観光政策G長）、鎌田副部会長（農林水産政策G長）、梶委員（電算・情報推進G長）、森委員（長寿・介護G長）、山下委員（農政第1G長）、赤塚委員（教育政策G長）、藤崎委員（企画政策課長補佐）	
	事務局	松永企画政策課主任主事	
	その他	（株）鹿児島経済研究所 眞竹	
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	5人
<p><u>会次第</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 合同会議の進め方等について 3 「霧島市人口ビジョン」に係る基礎資料について 4 自己紹介 5 「(仮称)霧島市地方創生総合戦略」に係る意見交換 6 その他 7 閉会 			
<p><u>意見交換の要旨</u></p> <p>○企業・商工業、農林水産業関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の付加価値を高め、霧島の農水産物の価値を高める機能性商品の開発が必要。 結果として→食品会社が立地→健康なまち ・まずは潜在的な商品の機能性についての分析が必要。 ・霧島だからこそのものはないか（国内だけでなく海外で売れるものはないか） ・黒酢、お茶など健康で良いものはある ・現状、お茶は全国的には認知されていない ・お茶の効能などを分析し表示すればいいのでは →機能性表示の例：「農薬をあまり使用していない」など ・ブランドイメージをどうするか ・成功例：京都の宇治茶 →お茶そのもので売り出すだけでなくスイーツ等の加工品として商品化している →霧島は空港がある。加工品として工夫することで海外へもPRできる。 ・「地場産業の育成」、「新産業の創出」を具体的に展開するにはどうすればよいか。 ・霧島市の産業については、分野別に強みや弱みなど統計をとる必要がある ・事業としてやる以上は利益が出るスキームがないといけない ・何が価値として売れるのか認識する必要がある（分析する必要がある） ・営農塾を実施（将来的に就農してもらうための育成機関） ・いい素材はあるがビジネスノウハウがない（鹿児島に共通する課題） 			

- 「ビジネス塾」⇒起業したい人がビジネスにつながる育成体制、サポート体制が必要
- ・天然アサリの研究
- 教育機関との連携や雇用環境
- ・学校・企業・行政のマッチング機能が必要（県内に残りたい生徒の潜在的な人数は多い）
 - ・企業見学会など、まずは地元企業を知ってもらうことが必要
 - 県外へ進学・就職してから戻ってくるのは現実的に厳しい
 - 最初の段階から地元就職してもらうことが望ましい
 - ・鹿児島県は就職で県外転出する割合が日本一である
 - 若者が出たきり戻ってこない
 - ・解決策の王道は地元の魅力ある企業があること
 - ・地元に残るメリットを教える必要がある
 - ・起業しやすい環境（工房）が必要
 - 指宿商業（高校生の時分からビジネスを学びビジネスを実践）
 - ・地元企業と教育機関の連携（共同研究、インターンシップなど）が出来ないか
 - KTCによるマッチングなど
 - ・就職活動中の若者が霧島市の企業を研究できるだけの情報がない
 - ・鹿児島県は離職率が高い
 - 企業説明会等を行うなど、企業関係者と就職希望者が顔を合わせて情報交換できる場を増やす必要がある
 - ・看護師不足
 - メリットの大きい奨学金制度を構築するなどして、最初から地元に残りたくなるインセンティブを与える必要がある